

経営比較分析表（令和3年度決算）

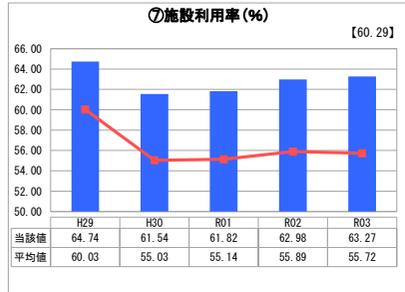
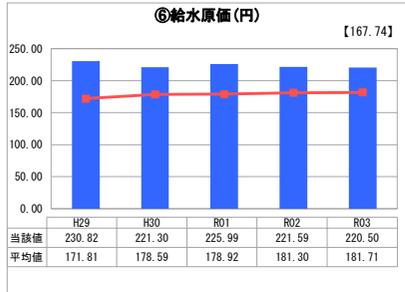
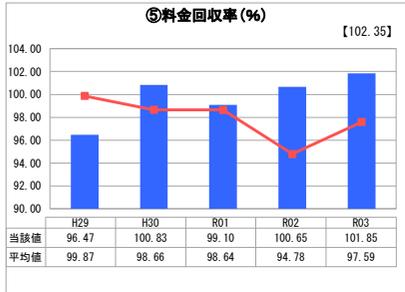
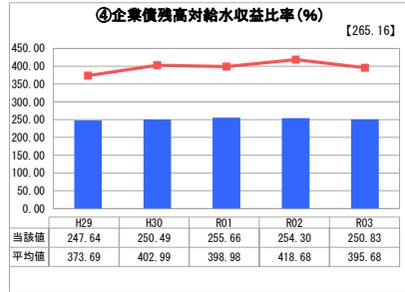
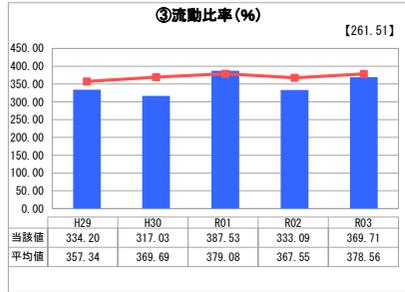
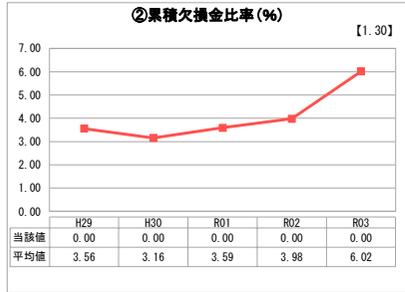
山形県 上山市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A6 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり客塵料金(円) | |
| - | 68.22 | 98.52 | 3,795 | |

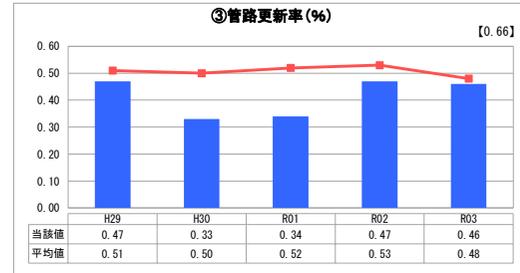
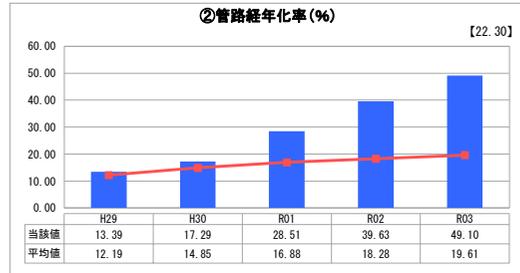
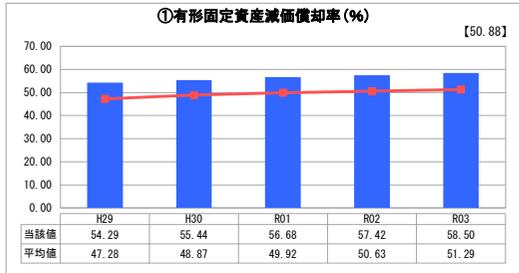
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 29,092 | 240.93 | 120.75 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 28,462 | 37.80 | 752.96 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和3年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超えており黒字を確保しておりおおむね健全な経営であったが、類似団体の平均を下回っており、さらに経営改善に取り組む必要がある。
- ② 流動比率、④ 企業債残高対給水収益比率
流動比率は100%以上を超えており、支払できる現金は十分確保しつつ、近年借入金額を企業債償還額以下に抑え、残高の縮減に努めている。
- ⑤ 料金回収率、⑥ 給水原価
100%を超えており、給水の費用が給水収益でまかなえているが、ほぼ全量広域水道からの受水となっているため給水原価は類似団体平均より高い傾向にある。
- ⑦ 有収率、⑧ 施設利用率
施設の利用率は高水準で推移しているが、有収率が下落してきており、給水水量が収益に結び付いていない。有収率を向上させる必要があり、漏水の早期発見・修理と老朽管更新を計画的に進める。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
- ② 管路経年化率
- ③ 管路更新率
管路経年化率が大幅に上昇し、拡張工事時期に一斉に取得した管路が法定耐用年数を迎えていると考えられる。
また、管路の更新率が低く有形固定資産減価償却率が高いことから、管路全体の老朽化が進んでいることから、アセットマネジメント等により計画的に更新を図る必要がある。

全体総括

給水人口は減少傾向が続いており、水需要も減少していく。そのため、現在経営は健全性を保っているが、将来的に経営環境は厳しさを増すと考えられる。今後も現状を維持していくためには、有収率の向上と業務の効率化を図る取組を進める必要がある。

官民連携や広域連携の取組についての調査研究を進め、またDX推進に取り組むことで経営基盤の強化を図っていく。

また、管路の老朽化に対応するため、ダウンサイジングに取り組む各計画を見直しながら計画的に管路更新を進めていく。